

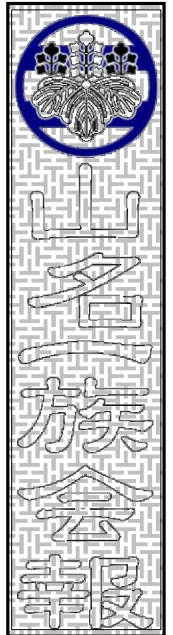


京都華頂大学。6号館の4階に「華頂ホール」がある。

山名会歴史講演会開催
昨年度、池坊短大「心ホール」を会場として開催しました山名会歴史講演会には、一般聴講者の方々を含め全体で120名を上回るご参加で実施できました。この「ご縁」を更に拡大させ、ひいては山名会

来る平成28年11月13日(日)に予定しております山名会総会及び歴史講演会につき概要が決定致しましたのでお知らせ致します。尚、行事の主会場ですが、今回は京都東山・知恩院門前の京都華頂大学の「華頂ホール」をお借りしての行事となっております。

山名会歴史講演会及び第23回総会の概要決定



全国山名氏一族会
〒667-1311 兵庫県美方郡香美町村岡区村岡2365 法雲寺内
電話 0796-198-1115
FAX 0796-198-1161

山名氏一族会第23回総会の日程 平成28年11月13日(日)

時間	予定・行事等
12・30	受付(京都華頂大学6号館4F「華頂ホール」)
13・00	知恩院参拝に向け移動 * 知恩院参拝
14・30	「室町時代のダイナミズム」 伊藤真昭先生
15・30	「南画の楽しみかた」 町田泰宣先生
16・30	歴史討論「京の地と山名」(仮題)
17・00	山名会年次総会
18・00	懇親会場へ ちゃんこ料理「いころ」(円山公園内)



東山山麓、知恩院門前華頂道の左右に京都華頂大学の学舎が並ぶ

の発展へと結びつける為、本年の山名会総会も再度、昨年と同様に歴史講演会を主体とした事業を計画致しました。今回はテーマを「京の地と山名氏」と致しました。
歴史講演の二題
歴史講演については二題お願いしております。華頂短大の伊藤真昭教授には「室町時代のダイナミズム」(仮題)として、ご専門の古文書研究の見地から観た中世室町期を中心に京の街や文化の変遷についてお教え願います。
もう二題は日本南画院の会長で、京都廬山寺管長の町田泰宣師に、中世以降中国から伝わり江戸時代にかけて発展定着してきた南画について、「南画の楽しみかた」



華頂ホールからは知恩院の三門を始め東山や京都の街並みが見下ろせる。

(仮題)として、数々の画をご紹介しながら、その味わいや楽しみかたをお教えいただきます。

知恩院の特別参拝

また、今回は浄土宗総本山知恩院門前の「華頂ホール」での行事です。講演前の小一時間歴史散策を兼ねた知恩院参拝も予定しております。普段の観光コースとは少し異なり、非公開箇所参拝も含んだご案内をお願いしております。此方もどうかご期待ください。

ご参加お願いします

今回もまた前回と同様に、山名会会員だけでなく、一般の聴講者の皆さんにも参加を呼びかけた講演会と致したいと思います。後日、



華頂ホール。諸設備も充実した中規模なホール。定員数200名。

歴史講演会の案内ポスター等を作成・送付しました際には、参加者の勧誘等ご協力お願い致します。

そして何より会員の皆様方、なかなか出掛けにくい事かと存じますが、年に一度の山名会総会及び歴史講演会で御座います。

また今回は紅葉シーズンの東山の山腹、知恩院門前の会場からは眼下に広がる京の街並みともみじ模様が満喫出来る特等席です。

是非とも会員様ご自身もご都合を付けていただき一人でも多くご参加いただきますようお願い申し上げます。

宿舎も若干確保

ご縁で繋がっている？

少し前のことですが、天皇陛下の「生前退位」（譲位）の事が話題となりました。

報道で聞くところによると、明治以前で一番最後この生前退位をされた天皇は光格天皇で、その光格天皇によって整備されたお寺が閑院宮家菩提寺で、歴史講演会で講師をつとめていただける町田泰宣先生が管長をなさっている廬山寺となります。

廬山寺には光格天皇の位牌も納められている関係で、町田管長様ご自身が取材を受けられ光格天皇について語っておられたニュース映像を何度か目にしました。

また、光格天皇と言えば、



そのご生母は大江磐代の君、その磐代の君は伯耆打吹城主・山名氏豊の曾孫に当たることは山名会の皆さんならよくご存じことかと思えます。

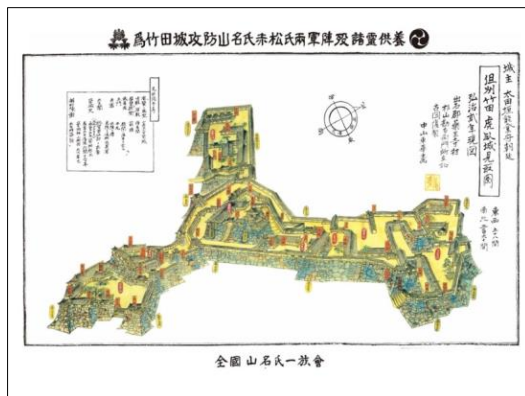
今回は山名年浩会長とのご縁で町田管長様に講師をお願いしたのですが、目に見えな深い縁で予め繋がっていたように思えてなりません。

昨年の山名会行事は土曜の開催で、紅葉シーズンと重なり宿泊場所の確保は絶望的でしたが、今回は日曜日の行事開催と言うこともあり、事務局でも若干の宿泊場所を確保しております。宿泊場所は20名分用意致して居ります。ご希望の方は早めに参加申込書をしてご連絡お願いします。

竹田城見取図の復刻

今回の総会記念品ですが平成元年に作成した竹田城見取図の復刻を考えています。

山名会事務局にも「竹田城の見取図が欲しい」と良く問合せを貰うのですが、残念ながら手元には在庫品は有りません。発行から27年も経っており、印



復刻版『竹田城見取図』B2サイズ (515×728) に若干縮小するかも？

刷をお願いした業者に問い合わせたのですが、聞いてみますと思ってもダメだろうナァ〜と思っただけですが、聞いてみますと原図は既に処分して残っていないが、完成品なら何枚か保存されており、それを元本に画像をコピーして復刻することは出来るようです。そんな訳で復刻版「竹田城見取図」にどうかご期待下さい。